

県外派遣報告書

審判員名	堀口 拳	所属	U18西部	
大会名	京王Jr.ウインターカップ2023-24 2023年度第4回全国U15バスケットボール選手権大			
期間	2024年1月4日～8日(参加日:4日～6日)			
会場	武蔵野の森総合スポーツプラザ			
スケジュール				
期 日	内 容	場 所		
1月4日	1回戦	武蔵野の森総合スポーツプラザ		
1月5日	2回戦	武蔵野の森総合スポーツプラザ		
1月6日	3回戦、準々決勝	武蔵野の森総合スポーツプラザ		
担当試合①				
担当試合	期 日	1月4日(木)	(男子) 女子	1回戦
	対戦カード	B.JOKER(青森) VS GYMRATS(静岡)	CC	U1 (U2)
	相手審判	CC:林原潤氏(千葉) U1:堀川和宏氏(福井) U2:堀口拳		
ミーティング内容		主任 松永航平氏(東京)		
<p>OPGC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベーシックなメカニクスを徹底したい。3人の感性は異なるので、ローテーションのタイミングなどお互いに早めに理解して合わせていきたい。 ・プライマリーを尊重し、クルーで協力して試合を進めていく。 ・マンツーマンペナルティの対応について共通理解をはかった。 <p>○ゲーム後のミーティング(全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クルーワーク良く、協力して進められた。 ・クルーが吹いたものをブックマークし、同じものを同じように吹けるようにしたい。また、クルーが判定して吹かなかったものは、同じようにノーコールにすることも意識したい。 <p>○ゲーム後のミーティング(個人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディフェンスの手の使い方がイリーガルにならないよう、声かけや笛を使って1Qからメッセージを伝えていくべきであった。 ・4QでB.JOKERのスイッチが変わり、ディフェンスがハードになったタイミングで、正しくない接触にもっと積極的に笛を入れるべきであった。選手のインテンシティーをもっと感じてコールしたい。 ・プレスの対応時に、センターがハーラインからボールマンを見てしまっていたため、バックコートのフリースローラインをもっと活用するようになったほうが良い(フラッシュとボールマンDFの両方を見るため)。 				
担当試合②				
担当試合	期 日	1月5日(金)	(男子) 女子	2回戦
	対戦カード	奥田クラブ(富山) VS Furuta kings(広島)	CC	U1 (U2)
	相手審判	CC:東條輝正氏(東京) U1:檜谷功夫氏(東京) U2:堀口拳		
ミーティング内容		主任		
<p>OPGC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エッジ下のプライマリーはリードだが、難しいときはトレイルに任せてペイントから目を切らない(体の向きで示す)。 ・基本的なメカニクスを徹底。 ・1on1が多くなると考えられるからボールサイド2を基本的には形成する。 ・マンツーマンペナルティの対応を確認した。 				

○ゲーム後のミーティング(全体)

- ・淡々と吹くべきものを吹き続けることができた。
- ・ローテーションに気づかず、トランジションでメカが崩れそうになるシーンがあったが、柔軟に対応することができた。

○ゲーム後のミーティング(個人)

- ・スローインファールにすべき場面で、スローインが先と判断しノーマルファールとしてしまった。声をかけて未然に防ぐか、もう少し影響まで見てコールすべきであった。
- ・アンスポーツマンファールを宣することがあった。それ以前に何か起きそうな火種はあったので、そういったところから予防のための笛も必要だと感じた。

担当試合③

担当試合	期 日	1月6日(金)	(男子) 女子	3回戦
	対戦カード	LakeForce(滋賀) VS 四日市メリノール学院中学校(三重)	CC	U1 U2
	相手審判	CC:蒲健一氏(東京) U1:堀口拳 U2:梶谷幸平氏(兵庫)		

ミーティング内容

主任

—

○PGC

- ・中学生の引退をかけた最後の全国大会の舞台に立てることに感謝し、責任をもって試合を進める。
- ・自分が今何をすべきか、何を見るべきか、セルフトークしながら取り組む。
- ・情報共有をしっかりとしつつ、気になることは必ずコミュニケーションする。

○ゲーム後のミーティング(全体)

- ・目を合わせたり、コミュニケーションを取りながら、協力してゲームを進められた。
- ・ベンチとも良好な関係を気づき、会話もしながら進められた。
- ・メリノールの手の使い方整理しきれないところがあった。

○ゲーム後のミーティング(個人)

- ・メリノールの手の使い方(ボールマンのスティール)が気になりながらも決め手がなくコールできなかった。本当にボールだけをチップしているのか、手や体にヒットしていないかをしっかり確認できる位置取りを探さなければならない。
- ・ゲーム途中クルーで共有していたオフェンスのシリンダーを超えた手の使い方を自分のプライマリーで起きたときにコールできず、別の場面でCCの蒲氏がコールした。自分の前で起きた1回目を逃さずコールしていきたい。
- ・ただ起きたことをコールするのではなく、何を止めさせたくてコールするのか、メッセージのこもった笛が吹けるようにならなければならない。

全体の感想

中学生とは思えない体格や身体能力をもった選手たちが非常に高いレベルで戦った大会でした。また、クラブチームが増えたこともあり、技術面においても驚かされることが多くありました。男子ゲームを3本担当させていただきました。全国の舞台に緊張もありましたが、現状もっている力は出せたのではないかと思います。同時に、多くの課題も浮き彫りになりました。吹いて終わりではなく、必ず今後の活動に活かしていきます。また、今大会A級やS級の上級の審判の方々と吹かせていただきました。普段から高いレベルの試合を担当されている方々が、中学生の試合をどうレフェリングするのか、どんなことに気づきながらマネジメントしているのかを、同じコート上で学ぶことができました。ただ起きた現象に笛を入れるのではなく、選手やチームの状況をいろいろと感じながらゲームを進めていくことが非常に大切だと感じました。

最後になりますが、年未年始からご準備いただき、大会期間も長期間朝早くから夜遅くまで大会運営をしていただきました東京都バスケットボール協会の皆様、審判担当の加藤様をはじめとした審判員の皆様、割当クルーやTO役員、その他大会に関係するすべての皆様に改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。